にじいろつうしん

Vol.10

2025年1月発行　　文責　にじいろこどもクリニック　院長　相澤知美

ご挨拶が遅くなりましたが、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。今年は雪が多く、クリニック周辺も渋滞を認めておりますので気を付けてご来院ください。

年末に近くの小学校、保育園でのインフルエンザAの流行がありましたが、年末年始の保育園のお休み、学校の冬休みで、年明けの外来は少し感染症が落ち着いていました。そして、冬休みも終わり、再び発熱者は増えてきています。新型コロナの流行を契機に、様々な感染症が季節を問わずに同時流行する傾向に変化したような感じがします。一人一人、症状と診察所見と、周囲の流行から検査を考えておりますので、予約時間通りに進まない場合がございますが、ご了承下さい。

乳幼児の皮膚の乾燥と保湿剤について

冬になりましたら、子供たちの皮膚が非常に乾燥していて、保湿剤の処方が増えました。皮膚には体内からの水分の喪失や、体外からの微生物やアレルゲンの侵入を防ぐ働きがあります。乳幼児の皮膚は大人の皮膚の1/3～1/2と薄く、バリア機能が低く、乾燥しやすい状態にあります。

生後2～3ヶ月頃までは、母体からのホルモンの関係で皮脂の分泌が多く、皮膚が皮脂で覆われていますが、3ヶ月を過ぎると皮脂が減少して乾燥が強くなり、4カ月健診頃には皮膚の乾燥から湿疹を認めている子が増えます。湿疹がかゆみを伴い、乳児は2カ月以上、幼児からは半年ほど湿疹が慢性化するとアトピー性皮膚炎の診断になります。湿疹の程度が強いと、ステロイド軟膏が必要となります。

処方している保湿剤に「ヘパリン類似物質（先発品：ヒルドイド）」があります。成分が水を引き寄せて保持するため保水効果が高い保湿剤です。ワセリン、プロペトなどは皮膚を保護する作用が強く、接触性皮膚炎（口の周りのただれなど）の予防等に良いですが、すでに乾燥している部位にはヘパリン類似物質の方が効果が高いです。使い分けると良いと思います。

ヘパリン類似物質にも軟膏、クリーム、ローション、フォームと種類があります。ローションフォームは水成分が多く夏場に向きますが、冬場は油成分が多い軟膏、クリームの方が、皮膚からの水分喪失が防げます。市販のものを購入するときも冬場はしっとりめの軟膏がお勧めです。

過去2週間の感染症発生状況

感染症	1/5～	1/14～
インフルエンザA	29	10
新型コロナウイルス	4	5
マイコプラズマ	3	16
溶連菌	5	5
アデノウイルス	0	1
りんご病	7	2
RSウイルス	2	2
ヒトメタニューモ	0	2

現在は最も感染症が混在している状況です。中国で流行しているヒトメタニューモウイルスは新型のウイルスではありません。国内でも時々流行していて、少数ですが当院でもたまに検出されています。乳幼児で気管支炎や肺炎になりやすいウイルスです。

2月の予定

2月1日(土) 9:00～診療開始

2月14日(金) 16:00（15:30予約）まで

2月15日(土) 9:00～診療開始

麻疹・風疹ワクチン、おたふくワクチンの就学前の追加接種がまだの方は、早めにご予約をお願いします。昨年も、3月に駆け込み接種の方がいらっしゃいました